

水トラストニュース

2025.12 No.53



もくじ

章子さん、ありがとう！

.....1

2024年度 収支決算報告

.....6

章子さん、ありがとう！



エジプト・クフ王のピラミッドの前で

大沼章子さんは、本年 6 月 27 日の午後 9 時半ごろ、帰宅途中で日泰寺裏付近を自転車で走行中に転倒し、名市大病院に搬送されましたが、脳の損傷が激しく、7 月 1 日午後 6 時半、永眠しました。7 月 3 日、名古屋第 2 斎場にて、息子、娘、孫たち、章子さんの弟夫婦、甥などの内輪だけで火葬（式）を済ませました。「この調子なら、100 歳まで這ってでも二人で暮らせそうだね」と言っていたのですが・・・

突然に旅立ってしまった章子さんの 77 年間の軌跡を振り返り、そこで出会った方々、お世話になった方々、そして環境汚染問題や人権問題、戦争など、世の中の様々な不条理と共に戦ってきたみなさんとの思い出を綴ってみたいと思います。

1. 巨大産廃処分場計画から水トラストの「水源の森・みたけ」誕生と活動の概略

後述するマレーシアでのトリウム放置事件の被害者を支援する運動に取り組んでいた名古屋・働く人の家での集まりで、御嵩町に計画されている当時東洋一と称された産廃処分場計画のことを知り、御嵩町を初めて訪れたのは 1995 年でした。その時、レストラン・ピートで 4 時間も話を聞いた柳川町長が暴漢に襲われて瀕死の重傷を負い、これを契機に全国初の産廃処分場の是非を問う住民投票が行われ（1997 年）、全有権者の 70% が反対を表明し、処分場計画は見事に阻止されたのでした。下流域でも処分場反対集会が開催され、名古屋水道労組、国労、全電通などの組合運動が合流してくれて、組合員など延べ 500 人が住民投票にあたっての戸別訪問に参加しました。

住民投票の後、私たちは、御嵩町の水道料金が名古屋市の 2 倍以上であることを知ったことを契機にして、木曽川上流と下流域都市圏のあまりの不公平・不条理さに気が付き、下流域から上流域に対してお金を送る水源基金の実現を目指す運動を開始するとともに、上下流域住民の交流の場としてトラストの森（1998 年）を開設したのでした。残念ながら水源基金は日進市など 4 市 1 町で構成された中部水道企業団では実現しましたが、名古屋市では実現していません。現在まで 27 年間続いているトラストの森での活動では、周辺の町有林や民有林の間伐作業や、なごや環境大学講座など年間 300 人余りの人々が下流域からやってきます。

章子さんは合計 30 年間も御嵩町に通い続けて、常に作業やイベントの先頭で活躍してきました。水トラスト名物となった昼休みの自己アピールタイムをリードしたのも章子さんでした。

2. 公害事件の被害者に寄り添う調査活動

三重県・小野田セメント藤原工場カドミウム粉塵公害では、名大災害研究会が手掛けた環境汚染調査に参加しました。米や土壌中のカドミウム濃度測定やセメント粉塵へのカドミウム濃縮メカニズムの解明などとともに、8 戸の原告農家との交流もありました。10 年かけた裁判では見事に勝訴を勝ち取り、モクモクと粉塵をまき散らしていたセメント工場の煙が無色透明になりま

した。

アムネスティ経由で SOS が伝えられた台湾・林口火力発電所の亜硫酸ガスが数百ヘクタールのモクマオウ防風林を枯らした事件の調査にも参加しました。ヨードでんぷん紙を使った測定によって、火力発電所からの亜硫酸ガス拡散状況が明らかにされ、調査結果は台湾の国会（立法院）で政府を追及する根拠となり、発電所が止まりました。この時政府を追及した立法委員・黃順興氏が北京に移り、全人代常務委員となったことで、中国・環境科学院で開催されたシンポジウムに招待され、その後、豪華な 1 週間に及ぶタクラマカン砂漠旅行をプレゼントされ、西遊記の舞台である火焰山や、ニューデリーより西にあるカシュガルにまで足をのぼすことが出来ました。

3. フィリピン・レイテ島パサール銅精錬工場による海洋汚染

フィリピンキリスト教協議会 NCCP からの訴えが日本聖公会に届き、名古屋駅の野宿労働者救援で知り合っていた聖公会の人々から名大災害研究会に伝えられました。日比合弁の銅精錬工場がレイテ島南西部の沿岸を汚染し、魚がとれなくなっていました。精製された銅は 100% 日本に運ばれています。日本側出資者は丸紅や伊藤忠で、技術協力は足尾銅山の古河工業でした。工場排水が流入するエリアの海底質からは高濃度の重金属類が検出されました。NHK の取材班もやってきて、公害輸出事件として 1 時間番組にもなったのですが、工場側が地元住民運動参加者をすべて雇用することによって運動が消滅し、支援と調査活動が難しくなって終わってしまいました。

4. フィリピン・パラワン島ニッケル鉱山による六価クロム公害

パラワン島の先住民からの訴えを受けて現地調査を開始した国際環境 NGO である FoE-Japan からの協力依頼を受けて、2009 年以來 16 年間の調査を続けています。今や住友金属鉱山の 100% 出資子会社となった CBNC 社がニッケルの現地精錬を行っています。工場に隣接してリオツバ鉱山があり、熱帯の赤土の下に眠るラテライト鉱を掘っています。このエリアを水源とするトグボン川の水質を調査すると、日本の環境基準や水道法基準を超過する六価クロムとニッケルが含まれていることが分かり、16 年間年間 2~3 回の監視調査を続けてきました。汚染水が流入するリオツバ入り江のマングローブ帯の底質には高濃度のクロムとニッケルが堆積し、入り江の生態系を破壊しています。これらの調査結果を踏まえて、住友金属鉱山本社との年間 2 回ほどの交渉を持ち、適切な水質処理を求めています。まだ解決には至っていません。これまでの数百検体に及ぶ水質分析は全て章子さんによって行われました。

ラテライト鉱が眠るフィリピン・ミンダナオ島やインドネシア・スラウェシ島でも同様の汚染が確認され、いずれも住友金属鉱山が関与していることがわかり、私たちの調査活動はどんどん拡大しつつあります。そんな時に要の章子さんを失ったことは大打撃です。

5. マレーシア・ブキメラ村でのアジアレアアース社によるトリウム汚染

マレーシア・ブキメラ村に立地していた三菱化成（現三菱化学）の 100% 出資子会社・アジアレアアース ARE 社は、スズ鉱石からスズを精製した後の残渣から希土類（レアアース）を精製していました。レアアースは、TV ブラウン管の発色剤、ライターが発火石、高性能磁石への添加剤などとして使われる重要な物質です。そのレアアースを取り出した後の残渣に放射性物質トリウムが含まれているのです。トリウムはウラン 235 やプルトニウム 239 と並んで核分裂する核種です。まだ原発にも核兵器にも使われていないのですが、将来使われるかもしれない物質として、ARE 社は工場周辺に野積みして放置していたのです。危険物とは知らない村人、子供たちが被ばくをして白血病や心臓病を発症しました。村人が裁判に訴えてイポーの高等裁判所で原告全面勝利の判決が出て、ARE 社は撤退しましたが、被害者への賠償はほとんど行われませんでした。

この事件についてはカトリック教会のルートで日本に伝えられ、名古屋では熱田働く人の家に集まった人々によって被害者への医薬品代や、自活の為に石鹼プラントの寄贈などが行われていました。ブキメラ村への現地訪問では、章さんが放射線測定器を持参して空間線量率の測定を行い、高い線量を記録しました。

6. 名古屋オリンピック反対運動と愛知万博反対運動

1980 年、名古屋政財界は東京オリンピック、大阪万博に続く柳の下 3 匹目のドジョウを得んものと、1988 名古屋オリンピックを目指すことを表明しました。メインスタジアムは平和公園で

す。ちょうど子育て真っ最中だった私たちは、共同保育所の仲間たちと共に「平和公園周辺住民の会」を結成して反対運動に立ち上がりました。時を同じくしてあちこちから反オリンピックの狼煙が上がりました。財政問題から名大の水田研究室、スポーツ科学の観点から愛教大の影山研究室、河合塾の牧野剛氏を中心にした反五輪共闘会議などなどです。この年、ドイツの温泉保養地バーデンバーデンで開催された IOC 総会に向けて 10 数名の代表団を送り、路上で見つけた IOC 会長に名古屋オリンピック反対署名を直接手渡すなど大活躍。一方、名古屋市はオリンピック開催決定の祝賀会要員 200 人を送っていたのでした。そのせいかどうかはわかりませんが、1988 年オリンピックはソウルに決まり、市民運動の勝利となりました。大勝利の後、子育てのフィールドとして平和公園南部地区の約 50ha の雑木林を利用していた私たちは、ニュースレター「雑木林」の各戸配布、月例の平和公園自然観察会、糸つむぎや包丁研ぎなど忘れられた手仕事を学びなおす「明日の学校」の開催など、10 年以上にわたって地域運動をつづけました。観察会は今でも続いていますから、45 年間続いてきたことになります。

ソウルオリンピックが開催された 1988 年、名古屋政財界はリベンジとして 2005 年愛知万博に名乗りを上げました。会場は瀬戸市の海上の森、私たちは反万博運動を 17 年間もやることになってしまいました。国際博覧会事務局 BIE があるパリにも何度か足を運び、事務局に署名を届けたたり、各国大使館を回って「愛知に投票しないで」と訴えて回ったりもしました。ハノーバー万博反対運動を行ったドイツ緑の党やドイツ自然保護連盟 BUND を訪問したこともありました。そのついでにシュバルツバルトのハイキングを楽しんだことも思い出です。

愛知万博の是非を問う県民投票条例制定署名運動は 14 万筆の署名を集めました。知事と県議会によって葬られてしまいましたが、すごいイベントでした。署名を入れた段ボールは軽トラックの荷台に山盛りでした。この勢いで愛教大の影山健さんを立てて知事選挙にも挑みましたが勝てませんでした。

海上の森の素晴らしい自然を記録したビデオテープを制作し、もちろん英訳して各国のビデオ事情ごとに変換を施して、送ったこともありました。その甲斐あって、BIE から愛知県に対して「環境破壊万博とならないように」とのお達しが届き、万博のコンセプトが「技術・文化・交流」から「愛・地球博～自然の叡智」となり、メイン会場は海上の森から青少年公園へと変更されました。市民運動の大勝利です。

大沼&大沼は、愛知県知事に逆らう県職員としてオリンピックから万博まで合計 25 年間で過ごしたことになります。

7. 福島第一原発事故による放射能汚染との闘い

章子さんと放射能との出会いは、大沼&大沼が結婚して 1 年後でした。夫婦で同じ職場にいてはいけないという不文律で章子さんは衛生研究所に配置転換され、放射能測定担当がちょうど空いていたことから、急遽、開放系の放射線源も取り扱う第 1 種放射線取扱主任者試験に合格し、愛知県唯一の放射能測定担当になったのです。原発県なら科学技術庁から手厚い予算が流れてきて 10 人以上の測定担当がいるのですが、非原発県ではたった一人なのです。1973 年のことでした。以後、千葉市にある放射線総合医学研究所での 2 週間の放射能測定研修が毎年続きました。

1986 年 4 月 26 日、チェルノブイリ原発事故が発生し、ゴールデンウィークの日本に大量の放射能が降りました。我が家の玄関には連日 TV 局差し回しのタクシーが止まり、それに乗って出勤した章子さんが毎日の放射性降下物量を測定して報道に提供したのでした。この事故を受けて、科学技術庁が非原発県にもゲルマニウム半導体核種分析装置を導入することになり、章子さんは機種選定から機器操作法の標準マニュアル作成まで大活躍でした。

地下水の年代測定をやっていたのも章子さんでした。大気圏内核実験が地下核実験に移行して地下水へのトリチウム供給が止まったことを受けて、地下水中のトリチウム濃度はその半減期に従って減衰していきます。これを利用して、地下水中のトリチウム濃度を測定すれば、その地下水の年代を推定することが出来るのです。彼女の実験室には、電気分解法によるトリチウム濃縮装置がずらりと並んでいました。

そして、2011 年 3 月 11 日、福島第一原発事故が起きました。5 月にはいくつかの産直グループが集まって市民放射能測定所を開設しようとの決定がされ、資金集めや機種選定が始まりました。章子さんの知識と人脈がフルに生きた局面でした。日立アロカ社には衛生研究所以来の人脈があり、当時品薄だった測定器をいち早く手配できた結果、7 月には測定が開始され、9 月に正式に

「市民放射能測定センター（略称：Cラボ）」が発足しました。資金は、高木仁三郎市民科学基金の緊急助成に応募して100万円をゲットし、産直グループが積み立ててきた原発反対「芦浜基金」などを合わせて500万円の測定器を買うことが出来たのでした。

放射能測定ボランティア養成講座を数十回行い、受講者は200人を超えました。そのうちの7～8人が現在のCラボを支えています。ニュースレターの購読者となったり、カンパを送ってくださる方々もいます。章子さんは講座資料を作成し、講師を務めて大車輪の活躍でした。1年目は約1000検体を測定しました。地方自治体分を含めて政府の測定件数が数万件程度だったのと比べると、大健闘です。

市民測定所が正確な測定をするためには精度管理が必要です。測定器メーカーに検定を依頼すると数10万円もかかるのでとても無理です。そこで福島県から200Bq/kgくらいの高濃度汚染玄米を10kgほど送ってもらい、それに汚染していない玄米を混合して、5Bq/kg～100Bq/kgの4濃度からなる標準検体キットを製作し、ゲルマニウム半導体核種分析装置（ゲルマ）で正しい値を測定しました。このシステムは後に、全国34の市民放射能測定所のネットワーク「みんなのデータサイト」が結成された時に、精度管理方法として機能しました。各測定所による標準玄米の測定値とゲルマの値との差をEn数法という数式で判定し、誤差が大きい測定所に対してはその原因を解明し、解決するまで支援をしました。このため章子さんは各地の測定所に直接出かけて、問題が解決するまでアドヴァイスを続けました。「みんなのデータサイト」がNPO法人になった時は初代の理事長を務めました。

Cラボは、福島から愛知岐阜へ避難してきた人々の損害賠償裁判の原告の皆さんの避難元汚染調査を行い、それを基に名古屋高裁宛の意見書を提出しました。弁護団を現地に案内して、放射能汚染の実態を知ってもらう役目も果たしました。郡山の有機農家に泊まり込んで農作業を手伝うとともに、住居の室内室外、農地の空間線量率を経年的に調査するとともに、土壌や作物の放射能濃度を測り続けてきました。南相馬の農家でも同様の調査を続けてきました。帰還困難区域を通る道路をホットスポットファインダーという測定器で測って汚染地図を作成する仕事も続けてきました。2013年から2025年まで、車に測定器とサンプリング用機材を積み込んで毎年10日間ずつの遠征をし続けたのは章子さんでした。

8. 名古屋大学医学部環境労働衛生学教室での仕事

衛生研究所退職と同時に、中部大学の加藤研究室に客員教授として迎えられ、数年後には加藤教授の移動と共に名古屋大学医学部環境労働衛生学教室の招へい研究員となり、毎日夜遅くまで名大の研究室で重金属の測定、大学院生の指導などを17年間にわたって務めてきました。3000万人のヒ素中毒患者が発生したバングラデシュをフィールドにした調査では、大量の血液や尿の重金属分析を手掛け、ヒ素による発がんメカニズムなどの解明につながる研究を担いました。レーザーアブレーション装置という最新の測定装置を使いこなしたのも章子さんでした。

そして、この研究室に備えられたICP/MSや高速液体クロマト、イオンクロマトなどの装置が、各地の環境汚染調査のための測定にも役立てられたのでした。

9. リニア新幹線建設工事による重金属汚染に関わる事前調査

ルートのほとんどがトンネルであるリニア新幹線工事では大量の残土が発生します。このトンネル掘削残土が重金属による水質汚染を引き起こすことはよく知られるようになりました。すでに20年以上前に、岐阜県可児市では東海環状自動車のトンネル掘削残土が深刻な重金属汚染を起こしました。瑞浪のウラン鉱山地域を通過するために、ウランの監視も必要です。このため、岐阜県駅が出来る中津川市、地上区間となる可児市久々利などで事前調査を行いました。いよいよ工事開始後の汚染水監視調査が必要な段階になってきたのですが、章子さんが欠けて困難さが増えています。

10. 登山、山スキー、旅

二人の山登りの始まりは、1972年1月の新婚旅行で登った厳冬の蔵王でした。仙台一高山岳部の山小屋が宮城蔵王に建てられた最初の冬山でした。スキー場から3時間ほど登ったところ、スノーモンスターとなるアオモリトドマツの森の中に立っていて、食料も全て背負っての入山です。3日目に快晴の好天に恵まれ、刈田岳から馬の背を経て最高峰の熊野岳に登り、地藏山を経

て山形蔵王スキー場に滑り込む豪快なルートを歩きました。中学校のスキー教室で数日間習っただけの章子さんのスキー術では大変なコースで、ようやくスキー場の下端に達した時は真っ暗闇、人っ子一人いない状態でした。それでも章子さんは全く弱音を吐きませんでした。以来、55年間に及ぶ山登りと山スキー、そして旅行の歴史が刻まれてきました。

山スキーで山頂から滑った国内の山は日本百名山 33 座を含めて 100 山を超えます。国外でも、シャモニーからツェルマツト迄を 6 日間で結ぶオートルートを踏破しました。モンブラン山群から出発して国境を超え、最後はマッターホルン北壁の横のストックジー氷河を滑る、世界中の山スキーヤーが憧れる最高のツアールートです。ノルウェーのフィヨルドの海を 5 日間航海しながら島々に上陸して山頂から滑ったこともありました。

無雪期の山登りは原則月に 1 回と決めて、様々な山に登ってきました。後半は、笠ヶ岳、常念岳、餓鬼岳、燕岳、大日三山、鳳凰三山、聖岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、上松からの木曽駒ヶ岳など 3000m 級の山の日帰り登山を敢行し、日帰り登山ガイドブックを出そうと考えていたのですが、これは未完に終わっています。

ヒマラヤのトレッキングでは、ランタン谷、ムクチナート、エヴェレスト街道、人類が初めて登頂した 8000m 峰であるアンナプルナを 1 か月がかりで周回するアンナプルナサーキットと 4 度、合計約 3 か月間を歩いています。最高所はトロンパス峠の 5400m でした。ヨーロッパアルプスの主要部分であるスイス、オーストリア、フランスを数十回訪問し、スロヴァキア、スロベニア、ポーランドにも足をのびしました。ブルガリアとルーマニアが残っているのですが、果たせずに終わってしまいました。そして、2025 年 5 月に出かけた 3 度目のグリンデルヴァルトの山登りが最後の思い出になってしまいました。

アフリカでは、最高峰キリマンジャロ (5895m)、メルー山 (4566m)、北アフリカ最高峰のツブカル峰 (4200m) に登りました。4000m 峰だということで、ボルネオのキナバル山、ハワイ島のマウナロア、コロンビアのネバドデルイスにも登りました。

ニュージーランドのトレッキングも素晴らしいものでした。前半はルートバントラックで重荷を背負って歩き、後半はクック山周辺を歩きました。南米・チリとアルゼンチンにまたがるパタゴニアには行きそびれてしまいました。

山がない国の旅はほとんど行っていないのですが、トルコ、エジプト、イタリア、スペイン、ロンドンには出かけました。ロンドンは 2 年間かけて大英博物館を合計 2 週間見物しました。

10. 雨にも負けず

「章子さんを偲ぶ会」で話をするために、彼女の足跡をパワーポイントにまとめる作業をしながら、章子さんは宮沢賢治のような人だったなあと、つくづく思いました。その章子さんと共に紡いできた 55 年間の人生は終止符を打ってしまいました。さて、ボクのお燈明はいかほど残されているのか・・・

<宮沢賢治「雨にも負けず」の一節>

東ニ病氣ノコドモアレバ、行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ、行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ、行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ
北ニケンクウヤソシヨウガアレバ、ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒデリノキハナミダヲナガシ、サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、
サウイフモノニワタシハナリタイ

(大沼淳一記)

2024年度 収支決算報告

2024年4月1日から2025年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(資金収支の部)				
I 経常収入の部				
1 会費収入	100,000	72,000	28,000	
1) 正会員会費収入	40,000	40,000	0	正会員年会費 2000円×20名
2) 支持会員会費収入	60,000	32,000	28,000	支持会員年会費 2000円×16名
2 事業収入	150,000	141,174	8,826	環境大学、木売り上げ
3 補助金等収入	0	0	0	
1) 民間補助金収入	0	0	0	
4 寄付金収入	200,000	160,000	40,000	
1) 寄付金収入	200,000	160,000	40,000	個人有志より
5 借入金収入	0	0	0	
1) 借入金収入	0	0	0	
6 雑収入	25,010	28,211	△ 3,201	
1) 雑収入	5,000	3,500	1,500	総会、新年会の会費残など
2) 保険料	20,000	23,710	△ 3,710	ボランティア保険参加者負担分
3) 受け取り利息	10	1,001	△ 991	預金利息
経常収入合計	475,010	401,385	73,625	
II 経常支出の部				
1 事業費	300,000	294,874	5,126	
1) 水源林の保護育成事業	100,000	46,518	53,482	森林管理、ボランティア保険
2) 水源地域環境保全のための政策提言事業	100,000	195,836	△ 95,836	工具修理他
3) 環境保全啓発事業	100,000	52,520	47,480	ホトタストニュース印刷製本発送費、ボラみみ
2 管理費	155,000	132,000	23,000	
1) 役員報酬	0	0	0	
2) 給料手当	0	0	0	
3) 臨時雇賃金	0	0	0	
4) 福利厚生費	0	0	0	
5) 会議費	12,000	12,000	0	理事会、総会、役員会
6) 旅費交通費	0	0	0	
7) 通信運搬費	0	0	0	
8) 消耗什器備品費	0	0	0	
9) 消耗品費	8,000	0	8,000	
10) 印刷製本費	10,000	0	10,000	
11) 光熱水料費	0	0	0	
12) 賃借料	120,000	120,000	0	事務所賃借料
13) 諸謝金	0	0	0	
14) 租税公課	0	0	0	
15) 雑費	5,000	0	5,000	
3 予備費	15,000	0	15,000	
1) 予備費	15,000	0	15,000	
経常支出合計	470,000	426,874	43,126	
経常支出差額	5,010	△ 25,489	30,499	
III その他資金支出の部				
1 固定資産取得支出	0	0	0	
1) 水源の森土地取得費	0	0	0	
2 借入金返済支出	0	0	0	
1) 借入金返済支出	0	0	0	
その他資金支出の合計	0	0	0	
当期収支差額	5,010	△ 25,489	30,499	
前期繰越収支差額	1,961,003	1,961,003	0	
次期繰越収支差額	1,966,013	1,935,514	30,499	
(正味財産増減の部)				
IV 正味財産増加の部				
1 資産増加額		△ 25,489		
1) 当期収支差額		△ 25,489		
2) 水源の森土地取得費		0		
2 負債減少額		0		
1) 借入金返済額		0		
当期正味財産増加額		△ 25,489		
前期繰越正味財産在高		6,461,003		
当期正味財産合計		6,435,514		

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2 土曜日およびそれに続く 日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前 10 時（日曜日に日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法： 電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先： TEL 052-735-5453 (市村)

e-mail: mitake500npa@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物： 長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作



11 月に水源の森への入り口付近(御嵩町大久後)の
車道脇で目撃されたカモシカ

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曽川水トラスト

〒464-0850 名古屋市千種区今池3-12-3

丸美タウンマンション今池205（←2020 年 11 月より）

郵便振替00840-5-137369（←2018 年 5 月より）

URL <http://mitake500npa.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npa@yahoo.co.jp